

ルワンダ国月報（２０１６年３月）

主な出来事

【内政】

●第１３回リーダーシップ・リトリートが開かれ、２０２０年までにルワンダが知識集約型経済、中所得国になるための施策等について協議が行われた。（１２、１３日）

【外政】

●５日、ゲレ・ジブチ大統領がルワンダを公式訪問し、二国間で技術協力合意の署名、並びにジブチ港湾局とルワンダ開発局間の協力にかかる MOU 署名が行われた。（５日）

●８、９日、カガメ大統領はギニアを訪問し、ギニアの最高位の勲章である大十字勲章を授与された。（１０日）

●張徳江全国人民代表大会委員長はルワンダを公式訪問し、カガメ大統領を表敬した後、首相府等が入ることが予定されている合同庁舎の起工式に参加した。（２４日）

【経済】

●８日、ルワンダ政府及び日本政府は、平成２７年度対ルワンダ無償資金協力「第二次変電及び配電網整備計画」のＥ／Ｎ署名式を行い、キガリ市の電力配電網整備のための１、８４０万米ドルの贈与協定に署名した。（９日）

●ルワンダ政府が７、４００万米ドルを投じて米国企業 Colligan 社が建設した Nzove ２浄水所の開所式にカガメ大統領が出席した。（２９日）

※以下はルワンダの英字日刊紙「The New Times」の記事を取り纏めたもの。

【内政】

・拘留者に対する人権保護プロジェクトの開始

１０日、ＥＵから３０万ユーロの支援を受け、International Rwanda と「人権保護のためのルワンダ協会」が「拘留者等に対する司法援助及び啓発活動を通じたルワンダでのより公正な司法実現」と題した３年間のプロジェクトを開始した。（１２日）

・第１３回リーダーシップ・リトリートの開催

総勢２５０名の国内のリーダーが参集し、２０２０年までにルワンダが知識集約型経済、中所得国になるための施策等について協議が行われた。出席したカガメ大統領は、限られた資源を以て効率性を重視しながら国家目標を達成するにどうすべきか参加者に問いかけるとともに、同リトリートでは、特に生産部門を活性化し、「Made in Rwanda」を増やすこと等について議論の焦点があてられた。（１２、１３日）

リトリートでは、①生産分野の活性化による Made in Rwanda の推奨、②Vision 2020 及び EDPRS II の達成、③社会福祉の向上と子供の人権保護、④公的機関の説明責任と倫理の向上等を中核に１４の合意事項が決定された。特に、Made in Rwanda について、カニンバ貿易・産業大臣は、古着の売買をルワンダで禁止することにより、服飾業界でおおよそ３０万の雇用口創出につながるとともに、アジア各国での労働賃金の上昇を受け、縫製工場等

をルワンダに誘致することが有用である旨述べた。(17日)

・ **公的機関に対する訴訟件数のゼロ化目標**

2015年に行われた公的機関を相手取った裁判402件のうち、119件において公的機関が敗訴したことを受け、ビシンゲ法務大臣/司法長官は、税金の節約のため今後は公的機関を相手取った裁判件数をゼロとするため努力し、仮に右事態が起こった場合には政府側が勝訴するために最大限努力する必要がある旨述べた。(14日)

・ **ルワンダ女性議員フォーラム(FFRP)が新代表を選出**

18日、1996年からジェンダー間平等実現のための活動を行っている「ルワンダ女性議員フォーラム」集会において、新代表にアニサ・ムテツィ、副代表にジャンヌ＝アンリエット・ムカビキノが選出された。ムテツィ代表は、同フォーラムの活動により、これまでに行政・意志決定にかかる多くの女性の参画が可能となったが、今後も多方面において女性のエンパワメントを続けていきたい旨述べた。(19日)

・ **ンセンギマナ青年・ICT大臣のウムガンダ参加**

月1回のコミュニティ活動にあたる「ウムガンダ」に参加したンセンギマナ青年・ICT大臣は、このようなコミュニティ活動に若者が参加することこそが彼らの直面する課題の解決につながる旨述べた。(20日)

・ **ギャラ法改革委員会(RLRC)委員長による刑法の見直し要求**

法改革委員会(RLRC)は「自発的中絶を行った者に対し、1年から3年の禁固刑と5万から20万の罰金を科す」という現行の刑法162条の緩和を申し入れた。現行法では、レイプや近親相姦、母体にリスクかかる出産などの例外規定が設けられており、裁判所で例外規定に当てはまるとの判決が得られた場合に限り中絶が認められているものの、今回のRLRCの要求は上記裁判所への出頭規定の必要性につき疑問を呈するものとなった。そのほか、RLRCは、刑法上罪とされている不貞行為や、逆に罪と見なされない売春行為、狭義の着服(横領行為)などについても見直しを求める構え。(21日)

・ **「ディアスポラのルワンダ人女性コンベンション」の開催**

20日、ワシントンで在米ルワンダ大使館並びにルワンダ国際ネットワーク協会の共催で開催された「ディアスポラのルワンダ人女性コンベンション」において、ジャネット・カガメ大統領夫人は、ルワンダの歩んだ道のりや英雄史観、人権の大切さと等について教えるのは母親の役目である旨基調講演を行った。(21日)

・ **ンタガンズワ・ジェノサイド容疑者のルワンダへの引渡し**

ルワンダ政府は、ベルギーや仏、ウガンダ、コンゴ(民)等に潜伏している522名のジェノサイド容疑者の身柄引渡しを求めているが、ジャン＝ボスコ・シボイントレ・ジェノサイド逃亡者追跡ユニット(GFTU)長によれば、20日、ンタガンズワ・ジェノサイド容疑者の身柄がコンゴ(民)によってルワンダに引き渡された。GFTUによれば、隣国に潜伏するジェノサイド容疑者数は増加していると推測され、犯罪人引渡しにかかる一層の国際協力をルワンダ政府は呼びかけている。(22日)

・カガメ大統領のガケンケ県訪問

国民との対話を目的に定期的に行っている市民アウトリーチ・プログラムの一貫として、北部県のガケンケ県を訪問したカガメ大統領は、支線道路、ヘルス・センターの建設、電気網の拡大等につき、公約した。(25日)

・カガメ大統領のルバブ県訪問

カボネカ地方自治大臣同席の下、シナメニエ・ルバブ郡長から、茶・トウモロコシ・ジャガイモ・ピレトリンの生産増加等郡内の成果発表を行う一方、ルバブ病院の機能強化、火山岩の加工工場の建設などの課題が発表された。右を受け、カガメ大統領は、中央政府と地方政府の協力の下、早期に右課題解決に取り組むよう述べた。(26日)

・国家統合・和解委員会によるジェノサイド生存者への補償要求

28日、上院内の政治・グッド・ガバナンス委員会においてンダイサバ国家統合・和解委員会(National Commission for Unity and Reconciliation)事務局長はジェノサイド生存者に対する補償の遅延が国家統合・和解プロセスを妨げている旨訴えた。同日席上に配付された資料によれば、ガチャチャ裁判により既に判決が出ているにもかかわらず補償がなされていないケースは8,445件に上る。(29日)

・ガシュンバ(Dr Diane Gsshumba)新ジェンダー・家族計画大臣らの宣誓式

29日、ガシュンバ(Dr Diane Gsshumba)新ジェンダー・家族計画大臣、ムセマクウェリ(Maj Gen Jacques Musemakweli)陸軍少将、カランバ(Brig Gen Charles KARAMBA)空軍准将、ンザバムウィタ(Brig Gen Joseph Nzabamwita)、国家インテリジェンス・治安サービス事務局長らが任命され、宣誓式でカガメ大統領は、国家と国民の安全確保、持続的な治安維持は国の発展にとって最重要事項である旨述べた。(30日)

・「ルワンダのための民間団体(CPCR)」がルワンダ拠点を設立

28日、フランスに在住するジェノサイド容疑者の裁きを求めるため、仏を拠点として活動する「ルワンダのための民間団体(Collectif des Parties civiles pour le Rwanda(CPCR))」は、ルワンダを拠点に新たなNGO「CPCR友の会」を設立した。これは、ジェノサイド容疑者の裁判実現を念頭に、財政面・精神面でCPCRの活動を支援することを目的として設立されたもの。(31日)

・2016年のジェノサイド追悼式典のテーマ発表

ウワチュ・スポーツ・文化大臣は、2016年のジェノサイド追悼式典は在外のルワンダ人ディアスポラに対しても、ジェノサイド・イデオロギーや歴主修正主義との戦いを呼びかけるものにしたいと記者会見で発表した。ルワンダ政府によるこのような取組の裏で、世界に潜伏するジェノサイド容疑者達が今日もジェノサイド・イデオロギーを普及していることに懸念が示されている。(31日)

【外政】

・対タンザニア関係

4日、第17回EACサミットに参加したカガメ大統領は、本サミットのマージンでマダガスカル・タンザニア大統領と会談を行った。（3日）

・対ジブチ関係

ゲレ（H. E. Ismael Omar Guelleh）ジブチ大統領による当地公式訪問に際し、5日、二国間で技術協力合意の署名、並びにジブチ港湾局とルワンダ開発局（RDB）間の協力にかかるMOU署名が行われた。共同記者会見では、両国首脳から、両国間の貿易を促進するとともに、より広範囲な東アフリカ地域協力の深化に向け、良好な二国間協力のより一層の強化を図りたい旨発表があった。（4、5日）

・Next Einstein Forum

セネガル外遊中のカガメ大統領が8－10日までセネガル・ダカールで開かれたNext Einstein Forumに出席し、ルワンダは開発パートナーと協力の下、AIMSの本部誘致を含む科学政策に取り組んでいることを紹介するとともに、次回Next Einstein Forumを2018年にキガリで開催することに意欲を示した。（9日）

・グローバル・ウーマン・フォーラムの開催

キガリ市で開催されたグローバル・ウーマン・フォーラムは「Vision 2020に向けて：女性が推進するイノベーションへの移行」というテーマの下、世界各国から350名が参加した。式典にした参加したガシンジグワ・ジェンダー・家族計画大臣は、官僚主義と助成支援の仕組みの欠如が女性の起業する際の障害になっていることを認め、加工とバリュー・チェーンの面での女性支援、金融機関による特に農業分野に携わる女性支援の必要性について述べた。（9日）

・対ギニア関係

カガメ大統領は、8、9日にかけてギニアを訪問し、ギニアの最高位の勲章である大十字勲章（The Grand Croix）を授与された。本公式訪問の機会に、ルワンダとギニア両国は、両首脳が見守る中で、外交、公用旅券保有者に対するビザ免除及び一般旅券保有者に対する到着時の入国ビザの発行、並びにルワンダ航空によるキガリーコナクリ直行便の運営開始等を含む7つの分野で合意した。（10日）

・アフリカ・トランスフォーラム・フォーラムの開催

14、15日300人の各分野の著名なアナリストらの参加を得てキガリで開催されたアフリカ・トランスフォーラム・フォーラムでは、アフリカの迅速かつ持続可能な経済成長を支え、グローバルなサプライ・チェーンの一貫としてアフリカを位置づけるにはどうしたら良いか議論が行われた。同閉会式において、カガメ大統領は限られた資源をどのように活用するかについて人々の考えを変えることこそが、アフリカの変革にとって必要である旨述べた。（16日）

・東アフリカ立法会議（EALA）がオムニバス法を審議

EALAにおいて、東アフリカ共同体にかかる国内法を統一するためのオムニバス法の制定が審議された。同審議に参加したンゴガ・ルワンダ代表議員は、EACが共同市場を

形成するには600以上の各国国内法の調和を図る必要があり、東アフリカ法ジャーナルをつくる必要性につき述べた。(20日)

・対中関係

ルワンダに二日間の公式訪問中である張徳江全国人民代表大会委員長は、カガメ大統領を表敬した後、首相府などが入ることが予定されている合同庁舎の起工式に参加した。ムソニ・インフラ大臣によると、同合同庁舎は総工費3,700万米ドル、工期は2年とされているが、完成すれば政府機関の賃貸費の節約につながることを期待されている。中国は昨年12月にヨハネスブルクで行われた中国・アフリカ協力フォーラムにおいて、50億米ドルのアフリカ諸国に対する無償や無利子ローン・パッケージを含む600億米ドルの援助方針を打ち出しており、同パッケージによって、ルワンダは同合同庁舎建設に加え、マサカ病院の改修、キガリ市内の54kmに亘る道路網などの恩恵を受ける予定である。また、ムシキワボ外務・協力大臣は、同機会に、今次全国人民代表大会委員長の訪問は、同フォーラムのフォローアップとして重要なだけでなく、グローバルな問題に対する協力も含めた良好な二国間関係を一層促進するという両国の目的に資するものである旨述べた。なお、中国とルワンダの貿易総額は2億700万米ドルであるが、中国からの一方的な輸入過多で知られている。(24日)

・国連安保理におけるルワンダ批判

21日、国連安保理における大湖地域の紛争予防にかかる議論の席において、サマンサ・パワー米国連大使がルワンダの政治・市民権の尊重について「感心しない(less impressive)」,ウガンダ,ブルンジ,コンゴ(民)と並んで、ルワンダは、民主的説明責任,人権,法の統治等の分野において「解決しがたいつながり(inextricable connection)」があると発言したことを受けて、ガサナ・ルワンダ国連代表部大使は、ルワンダにおいて政治的空間や説明責任が欠如しているというのは根拠のない非難であり、大湖地域の抱える課題を考える上で上記4ヶ国をひとまとめに考えるのは得策ではない旨応答した。また、ガサナ大使は、国連が機能不全となりルワンダのジェノサイドを止められなかった際に、国を救ったのはRPFを率いるカガメ大統領であり、ルワンダ国民の大多数がカガメ大統領を支持している旨付言した。(24日)

【経済】

・対エチオピア関係

先週、ルワンダ及びエチオピアは航空協定「第5の自由」に署名した。本協定により、両国の国営航空会社は、相手国の領域内で第3国の領域に向かう乗客を搭乗させ、また、第3国の領域で搭乗した乗客を降ろすことが可能となった。(1日)

・対スイス関係

1日、スイスの国際ホテルグループは、キガリ市内にある Villa Portofino Hotel を買収した。同グループは世界30カ国以上でホテル経営をしているが、ルワンダはナイジェ

リア、シリアレオネに続き、アフリカ内では3カ国目である。(3日)

・89%の国民が金融サービスにアクセス

ルワンダは FinScope Survey 2016において、国民の89%が金融サービスにアクセス可能であると発表した。2012年の調査から約520万人増加したことになり、成人の約70万人のみが金融サービスにアクセスできていないことになる。(4日)

・宮崎大学修士課程に留学中のンタゴバ氏のインタビュー

2014年から宮崎大学修士課程にて情報科学を専攻中のンタゴバ氏(注:日本政府による留学制度であるABEイニシアティブのスキームを利用)は、グーグルで「ルワンダ」とカタカナで検索すると、ジェノサイド時の画像が多数表示され、近年の政府による目覚ましい経済成長は反映されていないことに気づいたと述べ、グーグル検索エンジンの画像更新をグーグル・ジャパンに要請する活動を行っている。ジェノサイドの印象が強烈なことも、日本企業進出の妨げの要因であると述べ、現在のルワンダはグーグル・ジャパンの検索結果とは大きく変わってきており、グーグル・ジャパンに、要請書を提出することで、ルワンダの日本での印象は変えられるだろうと述べた。(6日)

・海外直接投資(FDI)の増加

グローバルネットワーク・プロフェッショナルファーム(知的専門家集団)である KPMG 社が発表した「アフリカへの投資を促すもの何か(What influences foreign direct investment into Africa)」と題する報告書によると、ルワンダのFDIインフローは他国と比較すると金額は大きくないが、過去5年間で7%増と確実に増加している。(6日)

・日本による無償資金協力

8日、ルワンダ政府及び日本政府は、平成27年度対ルワンダ無償資金協力「第二次変電及び配電網整備計画」のE/N署名式を行い、キガリ市の電力配電網整備のための1,840万米ドルの贈与協定に署名した。ガテテ財務・経済計画大臣は、高い経済成長を牽引するためには、電力供給は重要な課題であり、エネルギーの重要性は第二次貧困削減戦略(EDPRS 2)にも述べられているとおりであるとして、本贈与は、ンデラ変電所の新設、ムリンディ及びカブカ変圧器の建設を実施するものである旨述べた。(9日)

・インフレ率(2016年2月)

ルワンダ国家統計局(NISR)が10日に発表した報告書によると、2月のインフレ率は前年比3.1%増、前月比では0.4%増であった。(11日)

・水力発電プロジェクト

ルワンダ政府及びアフリカ開発銀行(AfDB)は16日、2,417万米ドルの融資協定に署名した。本融資は、ルジジⅢ水力発電の建設に充当される。ルジジⅢは、ルワンダ、ブルンジ及びコンゴ(民)に跨がる水力発電所であり、147MWの発電量が見込まれている。発電された電力は3カ国がそれぞれ50MWを供与することで約束されている。(17日)

・ムラングワ・ルワンダ国家統計局長及びガテテ財務大臣によるメディア向け共同会見

２０１５年のＧＤＰ成長率は前年の７％から下降し、６．９％であったが、うち４７％がサービス産業、３３％が農業分野、１４％が産業分野であり、特にサービス産業の成長が目覚ましかった。ガテテ財務・経済計画大臣は、特に農業分野と産業分野間の強い連携を生み出すことが安定した経済成長のために不可欠である旨述べた。（１８日）

・栄養失調の児童減少

２２日、ムケシマナ農業・動物資源大臣は児童の栄養失調の割合が２０１５年の５２％から３８％（１４％減）へと改善した旨述べ、政府が、飢餓及び栄養失調の撲滅に向けた様々なイニシアティブを実施した成果である旨述べた。（２３日）

・カガメ大統領が Nzove 2 浄水所開所式に列席

カガメ大統領は、キガリ市の水不足に答えるために建設された Nzove 2 浄水所開所式に出席した。同浄水所はルワンダ政府が７、４００万米ドルを投じて米国企業 Colligan 社が建設したものであり、Nzove 1 浄水所と併せて、キガリ市への３万 m^3 の給水を可能とする。カガメ大統領は、同プロジェクトによってキガリ市内の世帯で１００％の清潔な水へのアクセスが可能になるとして、インフラ維持の重要性について説いた。（２９日）

・貿易赤字増加

ルワンダ中央銀行（ＢＮＲ）が２８日に発表した報告書によると、２０１６年２月までの前年同時期と比べると輸入額は７．２％増加し、また、輸出額が９．７％減少した影響を受け、貿易赤字は２、９７２万米ドルと増加した。（２９日）

（了）